

## 事 業 報 告

平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当期の日本経済は、上半期から徐々に景気回復への兆しが見え始め、設備投資の持ち直し、輸出、生産ともに改善、個人消費では旅行が国内・海外ともに、また、外食について前年を上回る動きが、今年に入り3月11日の東日本大震災によって景気見通しを一変させることとなりました。

このような経営環境のもと、当社では名古屋テレビ塔の新しい魅力を生み出すべき久屋大通公園と「恋人の聖地」を活かした独自イベント、名古屋港水族館・名古屋城など他施設との共同イベントの開催など、お客様サービスの充実を図るとともに財務体質の改善など確実な再建計画を進めてきました。また、アナログテレビジョン放送の終了以降に向けた名古屋テレビ塔の存続ならびに当社の事業見通しを得るべき名古屋市・愛知県、放送事業者などとの検討を進めてきました。

この結果、当期における有料入場人員は213,198人（前年に比べ6.1%減）、また、無料を含む総入場者人員は270,565人（前年に比べ2.4%減）となりました。これにより、当期における売上高合計は265,468千円（前年に比べ9.2%減）、販売費及び一般管理費合計は213,039千円（前年に比べ14.0%減）となりました。したがって、営業利益は52,429千円（前年に比べ18.0%増）となり、当期純利益は35,608千円（前年に比べ30.3%増）となりました。

平成23年度事業は、いよいよ今年度に迫ったアナログテレビジョン放送終了に向けた取り組みが本番を迎えます。58年前に名古屋市・愛知県、放送事業者ならびに地元財界などが総力をあげて建設しました名古屋テレビ塔。半世紀経過した今日、地域の重要な産業及び文化資産として戦後復興から経済復興を背に再び21世紀に活躍する「新タワー」として再生することをめざします。

引き続き、アナログテレビジョン放送電波の安定確保に努めるとともに、名古屋市・愛知県および放送事業者などとの連携のもと「新タワー」づくりに向け、役職員一同全力をあげる決意でございます。

株主の皆様には、誠に心苦しい限りでございますが、前期に引き続き今期も無配とさせていただきますのでご理解の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。